

(一般質問)

質問日	令和6年3月11日(月)			質問方式	分割方式		
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	15	氏名	神間 郁子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 市民の声を活かしたまちづくりについて (1) 市長の広聴・広報事業について (2) 「現場主義」の具体的な取り組みについて (3) 新しい区の将来像を描く取り組みについて	<p>市民の声は、今後のまちづくりを推進するために、重要な手掛かりとなることから、市長をはじめ行政が積極的に市民の声を聴取することは大変重要であると考えている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 「浜松市政を語る会」「まちを元気に！出張市長室」事業への所感、手ごたえと今後の展開について伺う。</p> <p>(2) 区政全体を統括する区政担当副市長をはじめ、職員「現場主義」の仕事の仕方についての具体的な取り組みを伺う。</p> <p>(3) 市民の声をどのようにまちづくりに活かしていくのか、住民とともに将来像を描く具体的な取り組みについて伺う。</p>						中野市長 朝月副市長 〃
2 若者への働きかけについて (1) 若者のシビックプライド醸成への取り組みについて (2) 若年層の意見を聞く仕組みについて (3) こども若者政策の推進について	<p>若者への働きかけは、本市の人口減少という課題に取り組む上で重要である。人口減少問題への対策の一つとして、少子化対策の強化が求められることは言うまでもなく、また、若者が未来を描くために、あらゆる施策によって、手を差し伸べ、後押しすることが重要であると考えている。</p> <p>そこで、若者のシビックプライドの醸成への取り組みをはじめ、若者への働きかけについて、以下伺う。</p> <p>(1) 市長の「我がまち大好き」講演会が市内の3つの高校で実施された。何を伝え、高校生の反応はどうであったか。事業への手ごたえと今後の展開について伺う。</p> <p>(2) 若年層がこれからの浜松について考え、夢を語り、意見やアイデアを出せる環境が整っていることは重要であると考えている。</p> <p>そこで、若年層の意見を聞く仕組みについて本市の具体的な取り組みを伺う。</p> <p>(3) こども家庭部の「次世代育成課」は、令和6年度から「こども若者政策課」へ名称を変更する。若者政策について、どのような点を重視し、具体的にどのような施策を推進していくのか伺う。</p>						中野市長 〃 吉積こども家庭部長
3 放課後児童会の運営委託化について	令和6年度から、全ての放課後児童会が全市統一仕様による運営委託化となる。運営委託化を進める中で、設置者として、保護者・事業者双方の声への丁寧な対応や、						奥家学校教育部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>様々な状況についての調整機能の強化が求められる。また、学校と放課後児童会が連携し、情報共有することが重要と考える。</p> <p>そこで、市内全ての放課後児童会の運営委託化を前に、以下伺う。</p> <p>(1) これまでの保護者や事業者の声への対応、また、学校と放課後児童会との連携について伺う。</p> <p>(2) 全市統一仕様による運営委託化後の現場の把握体制について伺う。</p> <p>(3) 放課後児童会の待機児童への対応について伺う。</p>	
4 若者の音楽文化を活用した「音楽の都・浜松」の新たな挑戦について	<p>音楽の街のシンボルであるアクトシティが30周年を迎える中、ポピュラーミュージックや電子音楽、軽音楽など特に若者の活力あふれるライブミュージックは地方創生の起爆剤になると考える。若者の活力、若者の音楽文化を活用した「音楽の都・浜松」として新たな挑戦をすべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p>	中野市長
5 「起業家カフェ」による創業支援について	<p>起業を支援する相談窓口である「起業家カフェ」は昨年8月にリニューアルし相談機能を強化している。起業を志す市民の多様性も考慮しながら運営しているものとするが、起業支援の状況と今後の取り組みについて、以下伺う。</p> <p>(1) 現在の起業家カフェの利用状況について伺う。</p> <p>(2) 働きながら起業の準備をする方は、平日や昼間の時間帯に利用することが難しいと考えるが、相談時間の変更などの相談体制について伺う。また外国人への対応について伺う。</p>	北嶋産業部長
6 ドローンの活用の実装に向けた取り組みと、今後の展望について	<p>経済産業省のデジタルライフライン全国総合整備実現会議中間取りまとめにおいてドローン航路設定の先行地域に天竜川水系上空が指定され、昨年12月にモビリティサービス推進コンソーシアム第1回ドローン利活用推進部会が開催された。</p> <p>また、ドローンは能登半島地震において、被災状況の確認や孤立集落への物資輸送に活用されている。</p> <p>そこで、ドローンの利活用や、ドローン産業集積での期待が高まっていることを踏まえ、以下伺う。</p> <p>(1) ドローンの利活用は災害時における対応や、地域課題の解決等に有効であるとするが、先行地域の指定を受け、本市のドローン利活用に向けた取り組みと方向性について伺う。</p> <p>(2) この機会を好機と捉え、ドローンをはじめとした、次世代空モビリティ関連産業の活性化に向けて、産業部として取り組みを進めるべきとするが、取り組み状況を</p>	<p>水谷デジタル・スマートシティ推進部長</p> <p>北嶋産業部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	伺う。	
7 中山間地域の医療体制について	<p>天竜区の過疎地域・中山間地域における高齢者の通院や医師不足などの医療課題に対し、令和2年「春野医療Ma a Sプロジェクト」の実証実験ののち、オンライン診療が取り入れられてきた。天竜区の地域医療の状況は、今後、引佐北部の中山間地域と、中山間地域に類する地域を有する浜名区の地域医療の姿となることが予測される。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 天竜区の中山間地域医療体制のその後の現状と、課題、その対応について伺う。</p> <p>(2) 引佐北部地域の医療体制への取り組みとして、令和3年9月議会の渥美誠議員の一般質問に対し、「数年先を見据えた診療体制を検討」と答弁があったが、その後の検討の経過と対応について伺う。</p> <p>(3) 大規模災害に備えた中山間地域への医薬品供給体制について伺う。</p>	平野医療担当部長